

お金について理解しよう!

お金は、消費生活をする際の支払手段として欠かせない。
自分の生活と結びつけて、お金の流れについて考えてみよう。

暮らしとお金



1 お金を支払う (カード払い)

現金以外にいろいろな支払方法がある。キャッシュレス化が進んでいるが、契約関係が複雑なクレジットカードについて理解しよう。

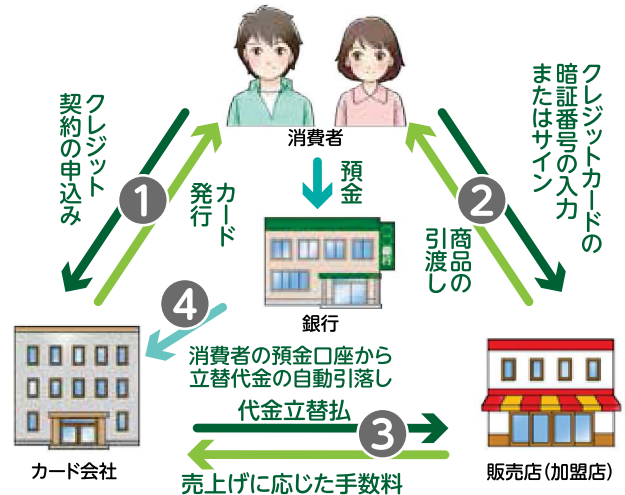
Q6 & A6

買い物をした後に代金を支払うことになるのはどれ?

➡ **②クレジットカードで買う。**



- **カード会社**が代金を立て替えて**販売店**に支払う。**消費者**は先に商品を手に入れて、支払期日までに一括または分割で**カード会社**に支払う。
- 支払期日までに、お金を用意しておく必要がある。



○クレジットカードの支払方法と手数料 *クレジットカードの手数料は、分割払い、リボルビング払いに発生する金銭。

支払方法		手数料
一括払い (1回払い・マンスリークリア)	代金を一括で支払う	なし
分割払い	代金を何回かに分けて毎月支払う	あり
リボルビング払い (リボ払い)	月々の支払金額を毎月一定額または残高に対して一定率に決めておいて支払う。支払回数は決まっていない。	あり

ワーク4 ①クレジットカードのメリット・デメリットを、消費者、販売店、カード会社の立場で考えてみよう。
②クレジットカードで購入した商品は、カード会社への支払が完了するまでは誰のものか。
③クレジットカードの普及は、消費生活にどのような影響をもたらしただろうか。
(ヒント) 上のクレジットカードの仕組みの図を参考にする。また、インターネットの普及との関係から考えてみる。

Q7 & A7

クレジットカードの支払方法で、1つ1つの商品の残高が分かりにくいのは？

➡ ②リボルビング払い(リボ払い)



- リボ払いは、月々の支払を一定額または残高に対する一定の割合に抑えられるが、支払期間が長くなりがちなので、手数料がかさみ、その結果支払総額も増える。
- リボ払いは定期的な支払が続き、残高が分かりにくくなる。

ワーク 5 キャッシュレス時代の様々な支払方法の特徴を調べてみよう。
(ヒント)プリペイドカード(電子マネーを含む)、デビットカードの具体的な例をあげてみる。



2 お金を借りる

Q8 & A8

自動車教習所へ通うため金融機関から20万を年利(金利)17%で借りた。
毎月5,000円ずつ返済した場合の返済総額は？

➡ ③約29万円 (60か月(5年)で完済(返済が終了)する。)



- 金融機関からお金を借りたら利息を付けて返す。
利息=借りた金額(元金)×年利(金利)×借入期間
- 月々決まった金額を返済した後の残金に対して、また利息が付くので、少額ずつ返済する場合は返済期間が長くなり返済額の合計は高くなる。
- 奨学金制度(返済が必要な貸与型)、住宅ローンも借金であることは同じ。
借りる前に、金融機関が提示する返済計画表を確認し、目的の実現後の返済計画を具体的に考えてみよう。

【プラスα問題】 20万円を年利(金利)17%で借りて、1か月(30日)後に一括して返済する場合と、毎月2万円ずつ返済する場合のそれぞれの返済総額を計算して、返済期間によって返済総額が変わることを実感してみよう。

(ヒント)◎年利(金利)とは1年間借りた場合の元金に対する利息の割合のことである。

1か月後の利息=元金(借入金額)×年利(金利)×借入期間(1/12か月)となる。

したがって、1か月後に一括返済する額は、(元金+1か月後の利息)となる。

◎毎月の返済額(元金+利息)が一定の返済方法を元利均等返済という。例えば、毎月2万円ずつ返済する場合、2万円には利息が含まれているので、2万円を返済しても元金に充当される返済額は(2万円-利息)である。翌月は、この残元金に利息が付く。残元金が0円になるまで計算を繰り返す。

○多重債務

複数の金融機関などから借金を繰り返すことで借金が雪だるま式に増え、返済が困難になること。



失業

事故や災害で
思わぬ出費

収入減

悪質商法の被害

ギャンブル等への
のめり込み

病気・ケガで
働かない

家族の病気や
世話で働かない

連帯保証人になり
借金の肩代わり

クレジットや借金で困ったら、まずは消費生活センター (☎188) へ

適切な窓口をご案内します。

3

将来のためのお金

お金には「預ける」、「備える」、「運用する(投資)」という役割もある。

預ける	備える	運用する(投資)
預貯金	生命保険、損害保険	株式、債券など



Q9 & A9

「必ずもうかる投資」ってあるの?

➡ ①「必ずもうかる投資」はない。



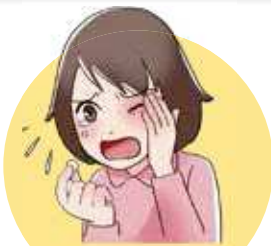
- 金融商品の中には、元本保証があるものと元本保証がないものがある。
- 一般的に高収益であるほどリスクも高くなる。また、元本以上の損失が発生する可能性のある仕組みの金融商品もある。
- 多様な金融商品が出回っているが、仕組みやリスクをよく理解できない場合は、絶対に手を出さない。
- リスクをよく理解し、認識した上で投資をすることも、選択肢の一つ。

金融商品で分からないことがあったら、契約する前に消費生活センター (☎188) へ

暮らしの安全について理解しよう!

製品やサービスによる事故で、ケガをしたり、時には亡くなってしまうケースもある。安全に配慮した行動、さらに事故の再発を防ぐための行動をしよう。

暮らしに潜む危険



カラーコンタクトレンズで目に傷がついた

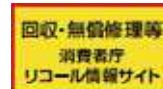


スマホ充電中にコネクターから発煙・発火



脱毛エステによるやけど

製品事故やリコール情報をチェック
(消費者庁ウェブサイト)



Q10 & A10

製品による事故が発生したとき損害賠償を求めることができる?

➡ ③欠陥による損害であれば、治療費なども含め、広く損害賠償を求めることができる。

ワーク6 イラストにあるような事故があったとき、消費者にはどのような行動が求められるだろうか。周囲と相談して考えてみよう。

(ヒント) 身体への危害発生、火災等の事故発生時には、まずどこへ連絡をし、どのような行動をとる必要があるか。

次に、消費者自身に損害が生じた場合の補償、事故の再発防止に関する連絡先を考える。

製品やサービスで危ない!と思ったら消費生活センター (☎188) へ